


事例報告1
地方都市における
日本語指導担当者の研修

和泉元千春(奈良教育大学)



2019/3/2 子どもの日本語教育学会 第4回大会 於 武蔵野大学 奈良教育大学イメージキャラクター なつきよん

1

発表の流れ

1. 外国人児童生徒等に対する教育に
関連する研修の実施状況についての調査
2. 福岡市の事例
「日本語と教科の統合学習指導に関する授業研究会」
3. 事例から得られる示唆

2019/3/2 子どもの日本語教育学会 第4回大会 於 武蔵野大学 2

2

1. 外国人児童生徒等に対する教育に
関連する研修の実施状況についての調査
(日本語教育学会(2018)の調査より)

2019/3/2 子どもの日本語教育学会 第4回大会 於 武蔵野大学

3

対象: 全国のエデュコム(1,788団体)、国際交流協会(62団体)
調査項目: 外国人児童生徒等教育に関する研修の実施状況

▽**実施の有無**: 研修の必要性は認識しているものの、あまり実際されていない。
実施している場合も、頻度や時間が非常に限られている

▽**対象**: 日本語指導担当者を対象とした研修が圧倒的多数
日本語指導教員 / 支援員 / 一般教員 / その他

▽**必要な専門性**:
-日本語指導、教科指導についての専門性
(JSLカリキュラム、DLAや特別の教育課程の知識、発達に応じた対応能力)
-コーディネイト力、連携する力

2019/3/2 子どもの日本語教育学会 第4回大会 於 武蔵野大学

4

<課題>
・研修の時間は非常に限定的
・研修対象者の背景が多様であるため、テーマ設定が困難
・担当者が固定化しない

↓

時間的に制限のある中で、個別の現状に合わせて
育成すべき**資質、能力を焦点化し**、
経験知の蓄積が可能な工夫が必要

2019/3/2

5

▽**研修の形態**: 講義形式が主流
事例報告(研究)、授業見学など教育現場に直結するものも
積極的に取り入れられている

実践の共有と、その後の
共同による振り返り作業

↓

- ・研究授業や見学によって子どもの見取りと授業力に必要な、
どのような力量が形成されたか?
- ・その力量形成のために、どのような工夫が必要か?

2019/3/2 子どもの日本語教育学会 第4回大会 於 武蔵野大学

6

2. 福岡市の事例 「日本語と教科の統合学習指導に関する授業研究会」

2019/3/2 子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑豊野大学

7

福岡市の状況

▽地域の背景: 外国人増加率 日本一
H26年度～
拠点校への日本語指導教員の配置(来年度は異動あり)
H29年度～
日本語指導教諭の採用開始

▽外国人児童生徒等教育に関する研修: 年間18回

2019/3/2 子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑豊野大学

8

事例) 「日本語と教科の統合学習指導に関する授業研究会(第6回)」

▽対象: 日本語指導担当教員

▽研修のニーズ: ほとんどが成人向け日本語教育の経験者
→年少者日本語指導、日本語と教科の統合学習に関する研修が必要

▽研修の目標: 日本語と教科の統合学習での「日本語の目標」設定の仕方と効果的な支援方法について考える

2019/3/2 子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑豊野大学

9

▽研修の流れ(120分)

【講義】 授業研究会の目的を確認し、授業参観の視点(児童の実態、目標設定、支援の工夫)を共有する

↓

【授業参観】 例) 小学校3年生JSL国語科単元
「進行しながら話し合おう『つたえよう、楽しい学校生活』」

↓

【協議会】 授業者自評→質疑→グループ協議(目標設定のしかた、効果的な支援)→講師による講話

↓

【振り返り】 今後の授業で工夫したいことを記述する
※1ヵ月後に追跡調査を実施

2019/3/2 子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑豊野大学

10

▼参観授業の内容 例) 小学校3年生JSL国語科単元 「進行しながら話し合おう『つたえよう、楽しい学校生活』」

主な学習活動と内容	主な支援
1. 本時のめあてをつかむ	発表したいことカード
2. 上手な話し合いのしかたについて知る。 ・司会者の役割 ・賛成、反対の言い方	動画(いい発表・悪い発表) フォーカス・オン・フォーム
3. 話し合いの練習をする	賛成・反対のフラッグ
4. 本時のまとめをする	司会者カード 板書によるまとめ

▼協議会でのグループ協議
付箋紙(黄:よかった点、青:改善点)での気づきの共有

▼講師による講話
目標設定の大切さ「学習後の子どもの姿を頭に描く」

2019/3/2 子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑豊野大学

11

3. 事例から得られる示唆

2019/3/2 子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑豊野大学

12

研修直後の受講者アンケート

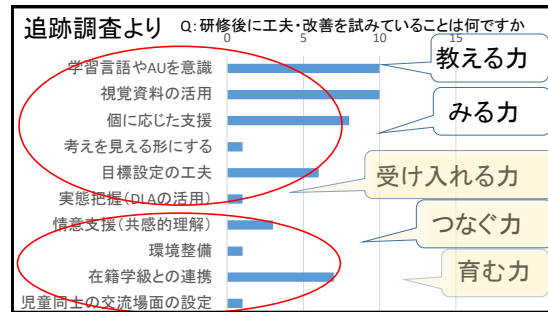
▽[以下の3点について] 参考になった点 (5pt中)

- ・支援(スキヤフオーディング)の種類と方法 (4.5pt)
- ・児童の実態把握の視点や方法 (4.3pt)
- ・教科や日本語の目標設定の方法 (4.3pt)

教える力
みる力

2019/3/2 子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑波野大学

13



14

- ①授業参観前、参観後に視点の焦点化
 - ②講師による講評
子どもをよく見て、目標(=目指す子どもの姿)を明確化することの重要性に言及
 - ③自己の実践の振り返りと次への行動の意識化
 - ④同じ立場の者同士が、同じ授業を参観し、生き生きとした教師や子ども同士の相互作用的な学びの実践を共有
- 進む力
- 2019/3/2 子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑波野大学

15

【課題】 岡田(2019)より

教員の指導経験の**違い**を強みに!
 ・校種(小学校/中学校)
 ・拠点校/配置校
 ・教科指導/日本語教育の経験

↓

学ぶ力、子どもの**学びの連続性**への視点

教師としての**ライフコース**での「外国人児童生徒等教育」の意味の捉えなおし

2019/3/2 子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑波野大学

16

そのほかの事例

例1) 日本語指導担当者と一般教員の合同研修

研修内容: 支援教室の参観(高校進学支援) + 講義

対象: 教室の日本語指導担当者(支援員)、一般教員(進学予定先の高校教員)

成果: 外国人児童生徒等の問題点の共有
外国人児童生徒等のキャリア形成に対する意識化
→ 学びの連続性の意識化

2019/3/2 子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑波野大学

17

例2) 日本語指導担当者と一般教員の校内研修

研修内容: ISLカリキュラムを活用した授業に関する研修(通年)
事例報告(取り出しの日本語授業と在籍学級の協働実践の報告)

研修の成果: 日本語授業と在籍学級の協働実践の事例報告をもとに自身の支援を振り返る場を共有。

講師や研修企画者の働きかけにより「学ぶ力」や学びの連続性を意識化

2019/3/2 子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑波野大学

18

<授業参観、事例報告を含む研修の成果と視点>

- 子どもの実態・具体的な支援の方法を理解 +α

+

- 子どもの学ぶ力、学びの連続性への視点
- 教師としてのライフコースにおける「外国人児童生徒等教育」の意味の捉えなおし

2019/3/2

子どもの日本語教育研究会 第4回大会 於 筑波大学